

8日 月曜

ヨシュア

15:13 ヨシュアは自分への【主】の命により、エフンネの子カレブに、ユダ族の中でキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンを割り当て地として与えた。アルバはアナクの父である。

15:14 カレブはそこからアナクの三人の息子、シエシャイ、アヒマン、タルマイを追い払った。これらはアナクの子である。

15:15 そして彼は、そこからデビルの住民のところに攻め上った。デビルの名は、かつてはキルヤテ・セフェルであった。

15:16 そのときカレブは言った。「キルヤテ・セフェルを討って、これを攻め取る者に、私の娘アクサを妻として与えよう。」

15:17 カレブの同族ケナズの子オテニエルがそれを攻め取ったので、カレブは娘アクサを彼に妻として与えた。

15:18 嫁ぐとき、彼女は夫に、自分の父に畑を求めるようにしきりに促した。彼女がろばから降りると、カレブは「あなたは何が欲しいのか」と彼女に言った。

15:19 アクサは言った。「私にお祝いを下さい。ネゲブの地を私に下さるのですから、湧き水を下さい。」そこでカレブは上の泉と下の泉を彼女に与えた。

カレブは老いてもまだ、主とイスラエルのために役に立つことを願い、その仕事を果たしました。十分な実績があり、もう休んでも良いと思える状態でも、主の必要であるなら信仰者は立ち上がるべきです。

そのようなカレブにはオテニエルという同労の勇者が与えられました。主のために私心なく奉仕する人には、主は助け手を与えてくださるものです。

アクサは父カレブが気前の良い人であることを



知っていたのかもしれませんが、多くを求めました。父親カレブはもっと大きな愛で、彼らに二つの泉までも与えました。乾燥した風土に住む彼らにとって、泉は非常に貴重なものです。

このように私たちも神様に対して、甘えのように何かを求めることがあるかも知れませんが、主は期待以上の愛のお方です。主の恵は私たちが考える以上のものなのです。主に頼って、主に求めましょう。浅はかな知恵は休止してみましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

